

## I 平成24年度通常総会開く

### 活動実施方針、事業計画決まる

#### 活動実施方針

【奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。】

【奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。】

平成24年度の理事会・通常総会を、6月9日(土)東大寺総合文化センター会議室において開催しました。

総会では、まず、平成23年度の事業報告と決算の承認をしました。つぎに、平成24年度の活動実施方針、事業計画および予算を決定しました。活動実施方針は前記のとおりで、事業計画は、前年度より継続して行っている「聖武天皇と光明皇后の衣装等復元製作の監修報告書作成」をはじめ、5つの事業を継続して行うこと、「神仏霊場巡り」支援は終了し、「奈良県内神社仏閣等



挨拶をされる 森本理事長



講演をされる 山口副理事長

歴史文化資源の顕彰」の新規事業を行うこと、合わせて6項目の事業を行うことを決定しました。

総会終了後、山口副理事長が「近鉄が目指すもの 奈良の地域文化とともに」と題して記念講演を行いました。

平成22年に創業100周年をむかえた近畿日本鉄道株式会社の発展の歴史、地元

に根ざす企業としての文化事業へ取り組み、企業経営者としての文化活動への心構え等について他社の例もまじえお話をいただきました。

## 平成24年度の事業計画

- ① 聖武天皇と光明皇后の衣装等復元製作の監修報告書作成
- ② 「万葉けまり」の保存
- ③ 「書の文化」の伝承
- ④ 「奈良の食文化」の伝承
- ⑤ 奈良県内神社仏閣等、歴史文化資源の顕彰
- ⑥ 「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

## Ⅱ 平成24年上半期に実施した事業

### 1. 万葉けまりの保存事業

#### ◎「平城京天平祭」に古代行事として万葉けまり出演

ゴールデンウィークの5月3日～5月6日の4日間、平城宮跡に於いて「平城京天平祭」が行われました。当フォーラムは4日（みどりの日）にメインステージである大極殿前庭において当時を偲ぶ古代の行事として「万葉けまり」を披露しました。

当日は、くもり空で少し風が舞う悪コンディションでしたが、特別参加の落語家「林家染太」師の軽快な話術による万葉けまりの紹介後、鞠子の皆さんは日ごろの成果を存分に発揮し、往時の都人の球技の一つけまりを披露しました。

披露のあと、見学されていた多くの子供さんが参加し、「けまり」を体感していただきました。



けまり風景



林家染太師

## 2. 奈良の食文化の伝承

### ◎「藤岡家住宅見学と五條の伝統食の試食」を開催

奈良県南部五條市にある藤岡家住宅の見学と、ひな祭りの時期に五條地区食される伝統食の試食会を行いました。

3月3日（土）36名の方が参加し、五條市宇智郷にある藤岡家住宅に集まりました。

まず藤岡家住宅を管理運営する NPO 法人うちのの館の学芸員川村優理さんから藤岡家住宅の説明をいただきました。藤岡家は、江戸時代からの庄屋ですが、五條、吉野と大阪を結ぶ交通の要地にあり、両替商や薬種商などを営む商家でもありました。江戸時代の庄屋、商家の建築物として登録有形文化財の指定を受けています。また、明治時代、最後の当主となりました藤岡長和氏は、内務官僚として熊本県知事等を務めるかたわら、「玉骨」の雅号で俳人として活躍された方でした。藤岡玉骨と与謝野鉄幹、晶子夫妻や高浜虚子との親交の様子や、庄屋、商家の生活の様子などを見学いたしました。

その後、NPO 法人うちのの館理事長の田中修司さん（田中さんは柿の葉すし本舗たなかの相談役）から、ご自身が考えられた藤岡家オリジナル料理「梅が枝点心」の説明をお聞きした後、奈良県マーケティング課の角山さんから、県認定の「ごっつおの達人」南口さんらの紹介いただきました。そして五條の伝統食として地元の食材を活用して、ごっつおの達人に作っていただいたお料理「ちらしすし」、「七色おあえ」、「刺身コンニャク」をいただきました。五條の伝統食、梅が枝点心、そして藤岡家オリジナルのつるし柿などをいただき、そのおいしさに皆大満足でした。

食事会終了後、高取町へ移動し、土佐街道の「町家のひな巡り」を見学しました。

江戸時代のお雛さまから、創作雛人形、そしておよそ90軒の民家がそれぞれの家に保存されているひな飾りを軒先に飾られているのを見学できました。

天候の安定しない日々が続いた中で、当日は晴天に恵まれ、楽しい一日を過ごすことができました。



川村学芸員からの説明を聞く会員



ごっつおの達人のお料理

### 3. 吉野川源流の水源地を守る活動支援

#### ◎清光林業現地見学会

6月2日(土)当フォーラム会員で理事の清光林業(株)の吉野杉の山林を見学しました。当日は28名が参加し、岡橋会長をはじめ関係者の皆さまのご案内をいただき吉野林業の現状を実地に勉強することができました。

川上村上多古地区に集合、3台の四輪駆動ミニバンに乗り込み、勇躍現地へ出発しました。

標高700m地点の高小屋で、岡橋会長から、長年取り組みをされている「奈良型作業道」についてお話をうかがいました。

「奈良型作業道」は、30年前から林業界の指導家大橋慶三郎氏の薫陶を受けた会長が自ら山へ入り自ら手掛けた独自の路網開設方法を、奈良県や地元住民に粘り強く訴え、説得した結果実現したものです。



説明をされる  
岡橋会長

間伐した杉の木を線路の枕木のように並べその上に砂利と土をかぶせ2.5m幅の道を作り、雨水を排水できるよう一定間隔で斜めにゴム板を立てる。法面も木を格子状に組んで補強する。作業道1m当たり投資コストは若干高いものの自然の掟に添った道づくりのため路肩が崩れることはなく修理補修は不要となり、結果トータルコストでは低くなり、通行上安全安心という大きな利点が得られるそうです。

この「奈良型作業道」の導入で、天候にかかわらず車で現場へ入っての作業が可能となったことにより雇用環境の大幅な改善に繋がる。日雇いから完全雇用へ、日給制から月給制へ、不確定な休日は一般と同じ週休2日制になり、その結果、次代を担う若者が集まり林業に従事する人材の育成が可能になったとのことでした。



奈良型作業道

さらに、機械化が可能となり、その結果女性や年配者にも就業機会が生まれました。

岡橋会長は、作業道の開設によって、何よりも若者にやる気と生き甲斐を持って仕事に励んでもらえる環境が整ったことに大きな喜びを感じておられようでした。

続いて、長年岡橋家の所有林の「山守」を担当している前田氏から吉野式間伐の意義と特徴についてお聞きしました。

杉は、学名を「*cryptomeria japonica*」と言い、木でジャポニカが付けられた唯一

説明をされる前田さん



のもの。山は北向きの面は土が深く南側は浅い。そのため北に植えられる杉は、根が地中深く伸び、枝は横へ張らず上へまっすぐ伸びるのだそうです。

土と気候・風土に恵まれた吉野の山では、他の地では苗木を通常1ha当たり3千本植えるところを1万本、間伐も60年で10回と通常の3、4倍多く行い135年で1万本が360本にまで間引きます。この密植・多間伐・長伐期という吉野独特の施業方式によって山の荒廃を防ぎながら産みだされる良質の杉材は、樽や桶の材料また建築材料として長年使われてきました。

お話の後、前田さんご本人によって山の所有者を表示する書付を披露いただきました。160年の杉の皮を削ったところに「四方岡清山」と黒々と墨で書かれ、その周囲に参加者の署名をさせていただき、まさにこの木から四方の持ち主の一人になった豪快な気分を味わうことができました。

高小屋から山頂方向に上がった工事中の箇所に、直径50cm長さ2mほどの間伐後の丸太が置かれていました。



所有者を示す書付

「これらの用途は？」との質問に対し岡橋会長は、五條市でバイオマス発電が認可され、年間6万立方メートルの木材が必要となる。今後、新たな資源として廃木の用途が見直され、活用される機会が確実に増えると答えられました。

峰の平では一帯に空木（うつぎ）が密集していました。前田氏の説明にもありましたが、除間伐を欠かさず行うことで灌木類や下草の成長を促し、表土を保全してきた成果であり清潔感に満ちた白い花びらが一層美しく映えていました。

作業道を下る途中、運転していた清光林業の若手社員の方に、「どうしてこの会社に魅かれたのですか？」と尋ねると、しばらくしてから「やはり会長の哲学ですかね」という答が返ってきました。彼は、言葉を継いでさらにこう言いました。「会社で運転が一番うまいのも、会長ですよ！」と。



杉林

指導者とその人から何かを吸収しようとする若い社員との強い信頼関係、次代を託す若者のやる気と生き甲斐の場を提供しまたそれを引き出しながらも、今なお「奈良

型作業道」の完成に向かって常に一步先に行く岡橋会長の姿に林業経営の神髄を見る思いがしました。

今回の見学を通じて、数代にわたり苗木を植え、育て、間伐を繰り返すという気の遠くなるような時間と手間をかけて成果物を得るという林業は、一方で地域の伝統と雇用を守り、自然と調和・共生し自然災害による被害を食い止め人命を守ることに大きく貢献しているという側面を忘れてはならないと強く感じた次第です。

(2012. 6. 2 T. H記)

### ◎森と水の源流館主催講演会に協力

7月16日に実施された川上村立図書館・森と水の源流館 開館10周年記念講演会に参加、運営協力を行いました。

当日は川上村のやまぶきホールに於いて「レンズに写った清流の宝物」と題し日本の美しい水・川上村の自然の魅力をネイチャーフォトグラファー内山りゅう氏による講演会が実施されました。当フォーラムのメンバーは受付、誘導等の業務を行いました。

### Ⅲ 今後の予定

年内に実施、参加が決定している行事は以下のとおりです。

- 9月 9日(日) 吉野川紀の川源流まつり参加 (川上村)
  - ・野菜の販売
- 10月 7日(日) 食文化、および奈良県内神社仏閣等、歴史文化資源の顕彰事業として東吉野村、記紀由来の丹生川上神社中社秋祭り見学と伝承料理試食会の実施
- 10月 21日(日) 川上村講演会の協力 「古事記にうつる源流の郷」  
講師 三浦祐之氏
- 11月 10日(土)～11日(日) 歴史博会場での万葉けまり出演 (橿原市)
- 11月 17日(土)～18日(日) 第3回大仏書道大会(東大寺大仏殿西回廊)
  - ・全国から応募された高校生、大学生の作品の内、優秀作品100点の展示
  - ・席書会の開催(18日午前中)

行事への参加、応援よろしくお願いします。

## 理事会構成

|       |       |                        |
|-------|-------|------------------------|
| 理 事 長 | 森本 公誠 | 東大寺 長老                 |
| 副理事長  | 堀井 良殷 | 大阪 21 世紀協会 理事長         |
| 副理事長  | 山口 昌紀 | 近畿日本鉄道(株) 取締役会長        |
| 専務理事  | 江並 一嘉 | 元(株)近鉄百貨店 副社長          |
| 理 事   | 足立伸之助 | 近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役相談役 |
| 理 事   | 安細 恭弘 | マルチメディアコンサルタント         |
| 理 事   | 飯田 圭児 | (株)近鉄百貨店 取締役社長         |
| 理 事   | 猪熊 兼勝 | 京都橘大学 名誉教授             |
| 理 事   | 卜部 能尚 | ウラベ木材工業 代表             |
| 理 事   | 扇谷 泰之 | (株)シードコンサルタント 取締役社長    |
| 理 事   | 大辻 康夫 | 奈良町情報館 特別顧問            |
| 理 事   | 岡橋 清元 | 清光林業(株) 代表取締役          |
| 理 事   | 岡村 元嗣 | 岡村印刷工業(株) 取締役社長        |
| 理 事   | 榎木 康雄 | (株)日昂食品 代表取締役          |
| 理 事   | 菊池 攻  | 奈良トヨタ自動車(株) 取締役社長      |
| 理 事   | 久保 昌城 | 竹茗堂 代表                 |
| 理 事   | 小山 新造 | 小山(株) 取締役社長            |
| 理 事   | 近東 宏光 | 共同精版印刷(株) 取締役社長        |
| 理 事   | 豊澤 安男 | 奈良豊澤酒造(株) 取締役社長        |
| 理 事   | 中井 隆男 | 大和ガス(株) 取締役社長          |
| 理 事   | 中寫 實男 | 奈良中央信用金庫 相談役           |
| 理 事   | 中村 憲兒 | 奈良交通(株) 取締役会長          |
| 理 事   | 西口 廣宗 | (株)南都銀行 取締役会長          |
| 理 事   | 増尾 正子 | 増尾グループ 常務取締役           |
| 理 事   | 森下 泰行 | 元近畿日本鉄道(株) 副社長         |
| 理 事   | 森本 俊一 | 三和澱粉工業(株) 取締役会長        |
| 理 事   | 山本 太治 | (株)三輪そうめん山本 取締役社長      |
| 理 事   | 吉川 勝久 | 近畿日本ツーリスト(株) 取締役社長     |
| 監 事   | 中寫 大  | 中寫大会計事務所 所長            |
| 監 事   | 福嶋 重博 | 奈良県サッカー協会 名誉会長         |

(50音順 平成24年7月1日現在)